

# 「第13回 西宮市都市交通会議 地域公共交通分科会」会議録

日 時：平成30年12月25日(火) 14:00～15:30

場 所：西宮市立勤労会館 4階 第8会議室

議 題：

1. 開会

2. 議事

議案第1号 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について

報告第1号 生瀬地区コミュニティ交通の運行実績等について

報告第2号 公共交通の利用促進に向けた取組みについて

3. 閉会

○委員出席者

役職名	氏 名	所 属 名	代理出席者
分科会長	松村 暢彦	愛媛大学大学院 理工学研究科 生産環境工学専攻 教授	
委員	森下 真	公募委員	
	中本 青子	公募委員	
	久保田 泰正	西宮コミュニティ協会 副理事長	欠席
	土井 勉	大阪大学COデザインセンター 特任教授 一般社団法人地域社会ネットワーク研究協会 理事長	
	楠田 悦子	モビリティコンサルタント ジャーナリスト	
	野津 俊明	阪急バス株式会社 自動車事業部長	
	野口 一行	阪神バス株式会社 取締役業務部長	
	松本 浩之	みなと観光バス株式会社 代表取締役	
	西村 博明	兵庫県交通運輸産業労働組合協議会 阪神地域協議会 議長代行	
	中澤 秀明	公益社団法人兵庫県バス協会 専務理事	
	五十嵐 一俊	一般社団法人兵庫県タクシー協会 副会長	
	森田 啓司	国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所 計画課長	欠席
	北条 達也	兵庫県 阪神南県民センター 西宮土木事務所 道路第2課長	主査 高地 慶
	向井 宣彦	西宮市 土木局 道路部長	
	細川 徹	兵庫県西宮警察署 交通第一課長	欠席
	和泉 幸男	兵庫県甲子園警察署 交通課長	
	岩野 住之	国土交通省 神戸運輸監理部 兵庫陸運部 輸送部門 首席運輸企画専門官	運輸企画専門官 大谷 健太郎
	藤原 信一	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課長	副課長 正垣 あおい
	永井 正志	兵庫県 阪神南県民センター 西宮土木事務所 所長補佐（企画調整担当）	
	豆成 一郎	西宮市 都市局 都市計画部長	

## 議事内容

### (1) 協議事項

#### ・議案第1号 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について

事務局より平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について説明。

※報告事項「報告第1号 生瀬地区コミュニティ交通の実行実績等について」の報告の後に協議を行った。

(委員) 平成30年10月から増便と運行ルートの一部変更を実施し、概ね3カ月となりますが、運行状況の変化を教えてください。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会)

10月以降、1日当たり10名ほど利用者数が伸びています。6便目の利用者数は、10月が平均17人、11月が平均21人です。6便目の利用者は、これまで別の便に乗車されていた方もいるので、純増にはなっていませんが、利用者数は確実に伸びており、増便による結果であると思います。

(分科会長) 採算性を上げることが目的ではなく、利用者数を伸ばすことが目的ですので、そういう意味では非常にいい状況になっているという報告かと思います。

(委員) 課題である積み残しについては、どのような状況でしょうか。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会)

昨年度1年間で4,400便運行して、6名の積み残しが発生しました。発生率は、0.1%です。今年度10月以降は、6便目を増便し、今のところ積み残しは、発生していません。

(委員) モビリティマネジメントとして、非常に多くのイベントをされている。イベントをたくさんやっていくのは確かに効果があると思いますが、すごく大変だと思います。利用促進の取り組みとして、効果があるイベントは一体何でしたか。

それから塾の送迎をしなくなったので、子供たちの需要が増えたというのは、すごく大事なことだと思います。今まで送迎されていた人が公共交通を利用することによって、送迎する側も随分精神的・身体的な負担が楽になるという話が、最近いろいろと調べているとよくわかってきました。地域の人にとっては送迎の大変さが軽減されるというのが効果としてカウントできれば、素晴らしいことかなと思いますので、このあたりをまた自己評価の指標として検討いただければと思います。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会)

イベントは確かに負担ではありますが、イベントを行うことで、我々の意識の強化や情報交換ができるとともに、バスが自分たちの生活の足だという認識を地域の皆さんに持ってもらえています。共通の話題として「ぐるっと生瀬」が地域の皆さんの意識にあって、皆さんの生活を高めていくことにつながっていくと考えれば、イベントは非常に重要な役割がありますし、またそれを負担に感じないような運営の仕方をしていかないとはいけません。

また、私が最初の交通会議で教えていただいたのは、コミュニティバスの命運というのは、自立心があるかどうかであり、身の丈に合った計画でやっていかないとはいけません。

うことだったと思います。運行開始後様々な要望がありましたが、すぐに取り入れず、3年間経過後の数値を見てから、新たに運行計画を立てました。これぐらいの慎重さを持って、持続できるところを見きわめていかなければなりません。地域の皆さんの生活の実態に合わせながら、よりよい運行計画を立てていかなければならないというところはありますが、もう少し時間をかけて、地域のニーズに合わせた計画を十分議論しながら繁栄させていきたいというふうに思っています。

(分科会長) 市はどのように考えていますか。

(事務局) 一つ目のモビリティマネジメントとしてのイベント効果については、現在「ぐるっと生瀬」運行協議会が楽しみながらイベントをされているところですが、その効果をはかりつつ、イベントの実施が重荷になってくるようでしたら、我々も積極的に協力し、応援していきたいと思っています。

二つ目の送迎に関する指標についてですが、6便目増便の一番大きな目的は、積み残しの解消であり、それに加えて新たな利用者の発掘もあると思います。その中に、送迎が含まれる可能性もあると思いますので、今後の状況も見ながら協議会の皆さんと検討していきたいと思っています。

(分科会長) 定量的な目標も重要ですが、定性的な目標もあってしかるべきだと思います。5ページ目の「4. 具体的取組に対する評価」について、実質的な協議会の運営の定着とか、イベントによる利用促進ということ、増便は一定の成果を出した上で慎重に見きわめて取り入れるというようなことも書かれた方がよいと思います。また、そういうことを評価の場で共有することが大切であると思います。

(事務局) 頂戴した意見を踏まえて、修正を検討させていただきたいと思います。

(委員) 6ページの「昨年までの二次評価の活用・対応状況」において、「モビリティマネジメントを実施される際には、バス利用につながるMMであったのか効果検証なども行われた」という表記がありますが、どういう意味でしょうか。

(事務局) この部分は国の二次評価結果を記載しておりまして、恐らく、いろいろな利用促進策をMMとして実施しているが、そのうちどれが効果的であったか検証してほしいということだと認識しています。これについて、具体的にどれが、どのように効果があったかを検証しようと思うと、アンケート等をとって検証するのが一番なのかもしれませんが、それには費用もかかりますので、記載の通り、輸送人員が増加したという数値を以て、効果的であったというふうな総括をさせていただいています。

(委員) 参考にですが、積み残しや新しいニーズの発掘方法として、使いやすいIT技術が増えてきているので、バスがどこを走っているかなどの「見える化」を検討されてもよいと思います。

(分科会長) 5ページの「5. 自己評価から得られた課題と対応方針」の課題に積み残し対策とあります。先ほどの回答では、緊急の用事でなければ、前後の便にずらしてください等の調整をされているという発言がありましたが、そのように記載してもいいと思いましたので、一度検討してください。普通、交通事業者のほうからお願いするなんてできないので、やはりこれは自分たちで運用し、住民との信頼関係がある組織ならではの発言だと思いました。

(事務局) 先ほど指摘のあった5ページの「4. 具体的取組に対する評価」については、一部指摘いただいたことを盛り込ませていただこうと思います。また一番下の「5. 自己評価から得ら

れた課題と対応方針」についても、意見をいただいたので修正をし、松村分科会長、並びに土井委員に確認していただけたらと思っています。ただ、本来でしたら修正した内容を再度、こういった協議会に諮らないといけないと思いますが、部分的な修正なので、お二方に確認いただくということで、承認いただいてもよろしいでしょうか。

(分科会長) 分科会長と土井委員の責任のもとに修正ということで、議案第1号については、承認するということがよろしいですか。

(全委員) 異議なし。

(分科会長) 議案第1号は承認されました。

## (2) 報告事項

### ・報告第1号 生瀬地区コミュニティ交通の実行実績等について

事務局より生瀬地区コミュニティ交通の実行実績等について説明。

※協議事項「議案第1号 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について」の協議の前に報告を行った。

(委員) 目標の1日あたり100人まであと2人ということで、大変利用も活発になってきたのはすばらしい成果だと思います。100人を超えるために、これから何が必要だと思われるか。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会)

3年を通じて、最初は高齢者の方が主でしたが、3年目には若い方や通勤客も乗車してもらい、利用層が広がってきたことを実感しています。

今は、6便目を運行することによって、習い事をする子供さんという新しい層に使っていただいております、またそれが口コミで広がり、次につながっていくと思っています。

(委員) どれくらいまで伸びそうで、どれくらいで頭打ちするかという目安が必要になると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会)

富山大学の先生のお話では、増便しなくても、1日あたり130人までは行く計算になっていると聞いています。もちろん利用促進活動も必要だと思いますが、実際に6便目の利用が増えてきていますので、130人は超えていきたいと思っています。

一番多い日が142人でしたが、積み残しなく乗っていただけたので、皆さんが混雑を避けるような工夫をしていただければ、もっと利用者数を増やせると思います。

(分科会長) 市はどのようにお考えでしょうか。

(事務局) 「ぐるっと生瀬」運行協議会の取り組みがこういう実績につながっていると思っています。また、生瀬の地域の皆様がライフスタイルをダイヤに合わせているところも実感しています。コミバスの運行する時間に移動する、混雑する時間帯は避けるというライフスタイルが一番の実績につながっていると思います。

(分科会長) 運行協議会の取り組みは非常にすばらしいと私も思いますし、こういうのが広がっていくといいと思います。その役割をぜひ市にお願いできたらと思います。他の地域に広がっていくことが難しいことはよくわかりますが、そういう芽をつくっていただくのがよりよい西宮市につながると思いますので、支援をお願いしたいと思います。

(委員) 塾通いや習い事の子供たちが利用されるようになってきたということを知り、やっぱりお母さんたちも楽し、そういう子供たちが増えていってくれたらいいなというふうに母親として思いました。

(分科会長) 今回、非常に頑張っていただいたおかげで、災害にもかかわらず利用者数が伸びているというような状況の報告をいただきました。

## ・報告第2号 公共交通の利用促進に向けた取組みについて

事務局より公共交通の利用促進に向けた取組みについて説明。

(委員) 市政ニュースに記事を書いて、結構反応があったということはすごいことであり、嬉しいことです。こういうメディアを使うとまだ効果があるという証明にもなっていると思います。これからこういうバスに乗ってお出かけしましょうとか、自動車に頼り切る生活から公共交通に切り替えることで、もっといろんな生活ができるというような呼びかけも機会があれば、ぜひやっていただきたいです。

もう一つ、市政ニュースの市職員募集の記事を見て思ったのですが、交通事業者さんの悩みの一つがドライバーの不足です。あるバス事業者さんが運転手の募集のチラシに「地域公共交通会議による路線の充実のため」というような文言を入れられました。ハンドルを持ってバスを動かす、地域の皆さんを元気にする仕事だという打ち出し方をされていたわけです。その効果かどうかは分かりませんが、応募が増えたということです。西宮市都市交通会議でも運転手の募集について、事業者さんと一緒に意見交換ができればと思います。

(委員) 市政ニュースは非常にわかりやすいと思いましたが、公共交通情報チラシ等を転入者の気持ちで読むと、何を書いているのかわかりにくく、理解するのに時間がかかってしまいました。

(分科会長) 高齢者交通助成割引購入証のチラシには、購入証がどのようなもので、どのような人がもらえるのか記載があったほうが良いと思います。

(事務局) 高齢者交通助成割引購入証のチラシについては、助成購入証と合わせて、チラシを同封しています。チラシは路線バス情報を抜き出したチラシとなっています。

(分科会長) ある年齢になったら、公共施設や映画、博物館などの割引があり、しかもバスも割引となれば、行ってみようかなとなると思います。そのような、横断的な情報をまとめたものがあればいいのではないのでしょうか。

(事務局) さまざまな公共交通の利用促進策がこれからどんどん必要になってくると考えていますので、いただいた意見も参考にしながら、検討させていただこうと思います。

(分科会長) 転入者についても同じで、西宮市に転入してきた人を歓迎しますというようなリーフレットをクリアファイルのようなものに一式セットし、図書館や公共施設の利用案内や、そこに向かう際はどのように公共交通を利用する、といった市民向けのサービスを横断的にまとめたような情報を提供してあげると、西宮市に転入してきてよかったとか、西宮市で60歳になってよかったとか思ってもらえる。そのような情報提供の仕方もあると思います。

(事務局) 情報提供の仕方については、転入した方に町内会、自治会の案内やごみの出し方などを冊子で情報提供するとともに、この公共交通情報チラシを同封しています。効果的な情報提供の仕方については、担当課とも協議いたします。

(分科会長) このようなチラシで情報提供されているということ自体がすばらしいですが、それをより効果的にやっていただけるようなアイデアをこのような場で寄与できればと思います。